



尼崎医療生協グループ

続・第3次医療支援隊活動報告

汚いトイレ、風呂に入れない、温かい食べ物は一切なし……大規模避難所

宮城和男医師は、宮城県内で最大の避難所の医療支援チームリーダーとして大奮闘を続けています。支援活動の合間に、メールで情報をいただきました。以下、宮城医師からの報告です。

<宮城医師からの報告>

多賀城文化センターは、最高1,000人以上の大規模避難所ですが、少しずつ減って、昨日(30日)現在で523人です。この大規模避難所では多くの問題点をかかえています。

まず、第一に、食事の問題です。配給されたものを配るだけで、ほとんどパンかバナナです。計算してもらって1日1,100~1,200キロカロリーくらい。炊き出しはなくて、温かいものは一切ありません。30日、7ヶ月の妊婦さんが一人にいるのを発見しました。食事が心配です。

次にトイレの問題です。和式の仮設トイレで、便がたまると棒で押し込むようになっていますが、その棒が汚い。身障者トイレは2階に1箇所だけ。ボランティアさんが介助していますが、この身障者トイレまで、1階、3階にいる身障者にとっては遠すぎます。膝が悪くて洋式トイレを使いたい人は使えないのが実態です。

三つ目は、お風呂の問題です。自衛隊のお風呂はありますが、洗髪のみ。外に出られない人はお風呂に入っていません。

四つ目は、避難所の床。先ず寒い。土足で使っていて、どんどん汚れてくるけど、一面に毛布が敷いて、掃除ができない状況です。

五つ目は階段です。エレベーターは1基しかありません。皆さんは階段を使いますが、足を踏み外して骨折した人がいました。今日(31日)手術になります。

六つ目は、この多賀城文化センターの構造が複雑で、全体がなかなか把握できません。注意しなければならない人のマップを作っています。

七つ目は、避難所の管理体制の弱さです。副館長さんが、ほとんど一人で管理されていて、毎日消耗していくのが見ていてかわいそう。

「ここにはプライバシーはない」、交渉で女性更衣室を確保

最後に、プライバシーが守れていないことです。沖縄からきた女医さんに、ある女性が「下着を変えられない」と訴えました。施設に言ったけど「ここにはプライバシーはない」と言われたと。私が交渉して、女性更衣室を1部屋確保してもらいました。

もっと問題点は一杯ありますが、今日(31日)施設管理者と交渉する予定です。ここ(多賀城文化センター)は避難所には全く不向きですが、現在、「避難所の統廃合」の話がすすんでいて、小学校の再開に向けて、この避難所に不向きな「多賀城文化センター」に集中するとの話しもあって危険です。

宮城医師は、医療支援を1日延長し、施設との交渉結果を後任者に伝え、避難所の環境改善にあたります。

全日本民医連の支援者到達（31日現在）

1,362人（医師251人、看護師406人、事務378人）

31日の支援者数は206人！ 延べ数は5,982人となりました！

義援金の到達状況

3月31日現在

にじのネットワーク全体で

4,863,027円

3月31日までに450万円を

日本医療福祉生協連の義援金口座に振り込みました。

ありがとうございました。引き続きよろしくお願ひします。

被災地の医療福祉生協の状況

○八戸医療生協（青森県）

地震で被災された組合員訪問が続いています。参加した職員は「訪問した住宅は大体掃除などもゴミの回収が終われば、見た目は以前に戻れるように見えた。しかし、その隣近所ではまだ避難生活をして片付けもまったく出来ていないお宅もあり、道路端では津波で上がったヘドロの粉塵が風にあおられて舞い上がっていて、道路の清掃等、行政の支援もまだまだ必要だと感じた」との報告。（29日付、地域訪問活動報告）

○松島医療生協（宮城県）

松島医療生協組合員の皆さんに向けた組合員訪問用のチラシ「大震災に負けないニュース」の発行をスタート！「大震災 20 日となりました。全国の仲間とともに、組合員さんの訪問を開始しました。何かお困りのことはありませんか？ 病気・健康・生活のことでお困りのことは、我慢しないで、すぐにご相談下さい。私たちのできることで、皆様とご一緒に努力して参ります。

○福島医療生協（福島県）

達南ブロック（川俣支部・飯野支部）でブロック会議を開催しました。両支部とも炊き出しや健康面での気遣いを含めて、地元の避難所への支援活動を行っており、避難所や地域の様子について交流しました。今後の医療生協としての活動について、まず班会を開いて地域の状況を出し合いやれることを考えていくこと。その中で、多くの人々が関心を持ち不安に思っている放射能と健康について、齋藤紀先生が23日に二本松市でおこなった講演DVDを活用して学習していくことで意志統一しました。

○郡山医療生協（福島県）

29日、新潟支援物資センターに集約されていた支援物資が到着。衣類、経管栄養剤、紙おむつ、レトルト食品など。送り主は、尼崎医療生協、北医療生協、福井医療生協など全国から。浜北医療生協と富山医療生協から送られた軽油をフル活用。大型バスで、浜通り医療生協へ水やマスクなど衛生材料、福島中央市民には、経管栄養剤を搬送。浜通り医療生協の近くのスタンドが給油を始めたとのこと。